

# 局所吸収指針作業班報告

作業班主任 多氣 昌生

平成22年12月7日

# 審議経過(1)

- 第1回委員会 平成21年8月24日
  - － 第1回作業班 平成21年9月4日(合同)
    - 作業班の運営方法
    - 局所吸収指針、比吸収率測定法の概要の整理
  - － 第2回作業班 平成21年11月27日
    - 局所吸収指針の改訂に向けた検討事項の整理
      - 局所吸収指針を改訂する(周波数上限の拡大)
      - 電磁界強度指針(補助指針)の改訂
  - － 第3回作業班 平成22年3月26日
    - － 2つのアプローチについて詳細な検討
    - － 局所吸収指針の周波数上限を3GHz→6GHzとする方向

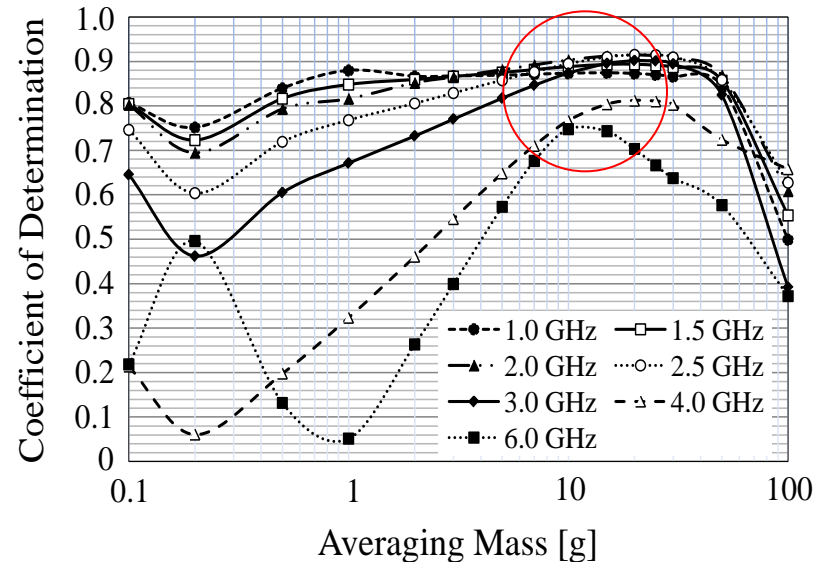
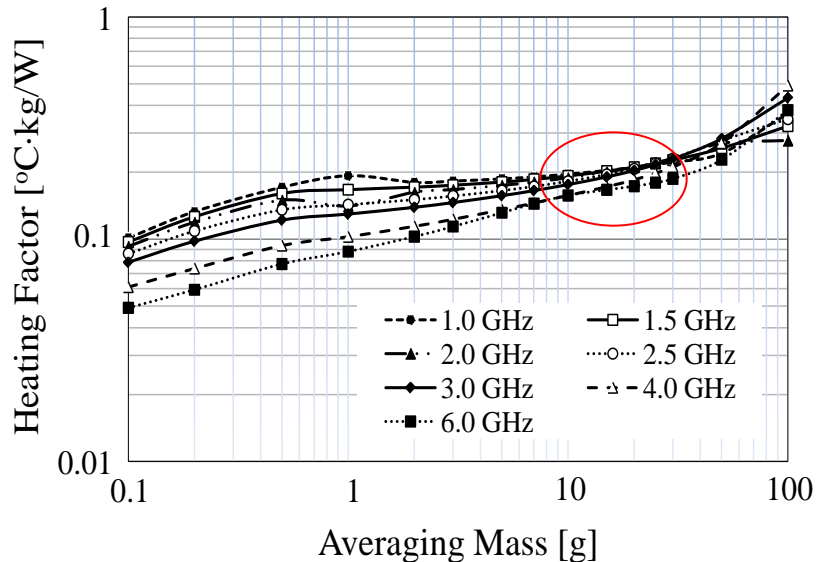
# 審議経過(2)

- 第4回作業班 平成22年5月18日
  - 局所吸収指針の波源から10cm以上での適用について
  - 審議状況報告案
- 第2回委員会 平成22年7月1日
  - 第5回作業班 平成22年11月9日
    - 第2回委員会での審議状況報告
    - 委員会での質問事項(子供の頭部を想定した検討の有無)について
    - 局所吸収指針改訂案の審議
- 第3回委員会 平成22年12月7日

# 委員会における質問(参考)

平均化質量と周波数上限 (2-②, ④) [3]

検討結果 (情報通信研究機構構築の頭部モデル) <sup>1</sup>



- 加温係数は6GHzまでの周波数では、10-30g程度の平均化質量に対して周波数依存性が小さい(1gの平均化質量だと1GHzから6GHzで2倍程度の違いがある)。
- 決定係数は4GHzより低下傾向にあるものの、10g平均では6GHzでも0.75以上(1g平均だと6GHzで0.05程度に下がる)

# 委員会における質問

平均化質量と周波数上限（2-②，④）[3]について  
（大人、小児両方について検討したグラフなのか？）

平均化質量の意味では厳密には検討をしていないが、

①結論として「熱の拡散長」が支配的な影響であることについて言及しているため、小児でも変わらないと推察。

②成人と小児のSARおよび温度上昇については、最大値については変化はないとの結論を示す計算データがある。

（Fujimoto et al IEEE TEMC 2006）



①及び②より、10W/kgで1°Cを超えないという部分では、小児のデータがあることになり、成人と比べて数値が大きく変化するとは考えられない。

# 局所吸収指針改訂案の審議

- 第2回委員会で、本作業班の「局所吸収指針の上限周波数を改訂することが適当」との報告に対して、異論はなく、よって、具体的な改訂案について審議した
  - 作業班での意見を踏まえて修正した案についてメール審議を行い、第3回委員会で審議いただくこととした
- 議事(3)